

社会科学の発展を考える円卓会議 2023.09.05
第3期・第8回会議「ジェンダーと社会科学」



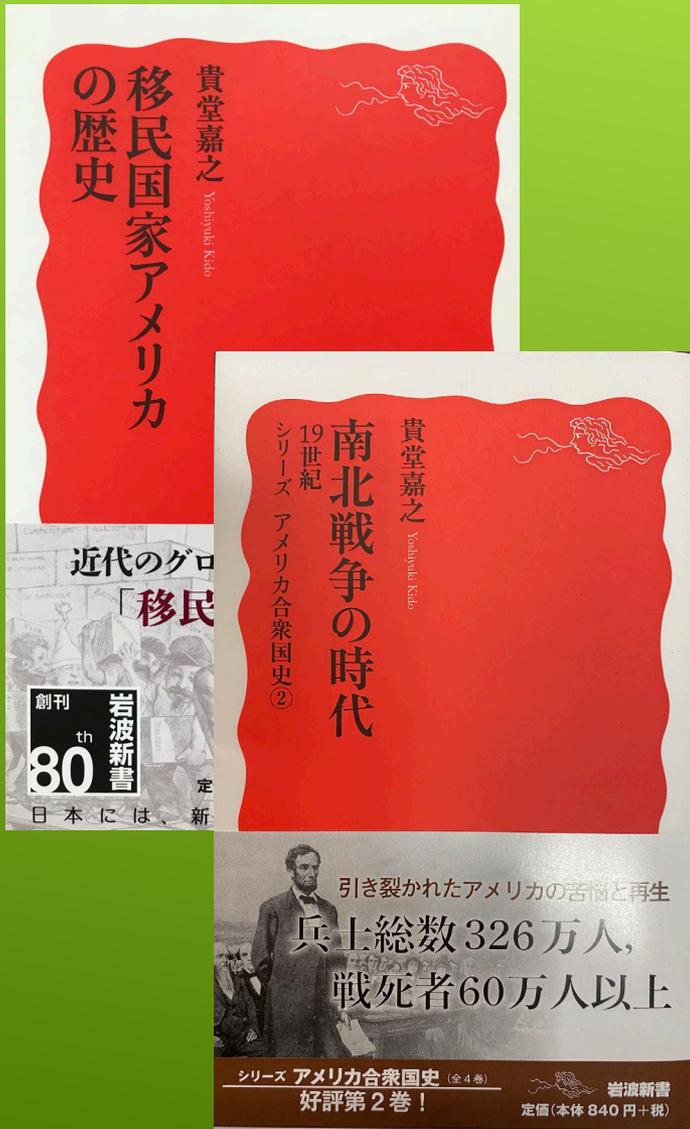
HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

大学におけるジェンダー /セクシュアリティ教育

—一橋大学ジェンダー社会科学研究センターの経験から—

一橋大学大学院社会学研究科
貴堂嘉之

自己紹介



- ▶ 一橋大学大学院社会学研究科でアメリカ史を担当、2020年9月から2023年3月まで社会学部長/社会学研究科長、ジェンダー社会科学研究所の設立メンバー
- ▶ アメリカ学会元副会長、ジェンダー史学会元代表理事・現副代表理事
- ▶ 専門;人種・エスニシティ・ジェンダー研究
アメリカ移民史/人の移動史
アメリカの国民統合・ナショナリズム研究
南北戦争・再建期の政治社会史
アメリカ史教科書
高校世界史教科書の執筆
など

1. はじめに —CGraSSとは—

ジェンダー社会科学研究センター 2007年4月発足

Center for Gender Research and Social Sciences

センターの活動の柱

○ジェンダー研究の推進…ジェンダー研究と社会科学・人文科学を融合させた学際的な研究領域の創出、国内外のジェンダー研究センター、研究者との交流

○全学向けの体系的なジェンダー教育プログラム(GenEP)の提供…学部・大学院向けに毎年50科目以上のジェンダーやセクシュアリティに関する授業をコーディネート

○第一線の研究者によるレクチャーシリーズの開催、ワークショップ等開催による学内啓蒙活動

代表：2007年度～2008年度
2009年度～2010年度
2011年度～2012年度
2013年度～2014年度
2015年度～2016年度
2017年度～2018年度
2019年度～2021年度
2022年度～2023年度

木本喜美子・貴堂嘉之
木本喜美子
坂元ひろ子
伊藤るり
佐藤文香
坂なつこ
貴堂嘉之・中井亜佐子
佐藤文香・洪郁如



センターの構成員 総勢31人

社会学研究科19人（名誉教授含む）、経営管理研究科2人（青木康晴、吉岡（小林）徹）、経済学研究科2人（竹内幹、横山泉）、法学研究科1人（長塚真琴）、言語社会研究科4人（中井亜佐子、井上間従文、川本玲子、小岩信治）、経済研究所1人（森口千晶）、その他2人

他の大学と比較しても大所帯で立派に見えるかもしれないが、実際はかなり特殊なセンター。

- ・大学直属のセンターではなく、社会学研究科所属の研究科内センター **常勤の事務職員なし、研究員なし**

2. 設立の経緯

○設立のきっかけは2004年の公募人事

90年代以降、他大学ではジェンダー研究が盛んになり、男女共同参画推進の動きが加速するなか、本学ではジェンダー関連科目がほとんどない状態

男女共同参画社会基本法（1999）/国立大学協会『国立大学における男女共同参画を推進するために』（2000）/日本学術会議『男女共同参画社会の実現に向けて－ジェンダー学の役割と重要性』（2005）

社会学研究科でジェンダー研究専任教員の公募採用(研究科内の有志が発議) **第一步 2005年**

大学当局は男女共同参画推進室の設置にも消極的だったため、他大学がトップダウン方式で先進的な取り組みを行う中、一橋はボトムアップ（下からのムーブメント）でやろうと立ちあがる

<2005年度～2006年度> 学長裁量経費

「一橋大学における男女共同参画社会実現に向けた全学的教育プログラムの策定」プロジェクト

GenEP=Gender Education Program

教員有志による学内の競争的資金を活用したジェンダー教育プログラム策定の試み

委員は社研の6名（関啓子,木本喜美子,貴堂嘉之,中野知律,佐藤文香,尾崎正峰）

この2年間（2005～2006）が設立の準備期間、 超多忙 ←でもこの周到な準備が大切

- ▶ 7回のワークショップ
- ▶ 全学シンポジウム
- ▶ 連続公開講座「男女共同参画のかたち」5回
- ▶ 海外視察:台湾・フィリピン・韓国・香港・デンマーク
- ▶ 国内視察:国際基督教大学・お茶の水女子大学・名古屋大学・早稲田大学・東北大学
- ▶ 学生・院生へのニーズ調査、教員調査
- ▶ ⇒集大成として
全学シンポジウム(2006年10月25日)



全学シンポジウム（2006年10月25日）の登壇者

⇒2007年3月 2年間の活動の最終報告書

- 大学によりオーソライズされたジェンダー教育プログラムを策定、新規科目の開講、授業アンケート
- 男女共同参画社会の実現を担う人材育成
- 本学のジェンダー教育・研究を担う運営基盤

<2007年度～>

2007年4月 社会学研究科のなかに

「ジェンダー社会科学研究センターCGraSS」の設立 Center for Gender Research and Social Sciences

三つの部門：①研究部門

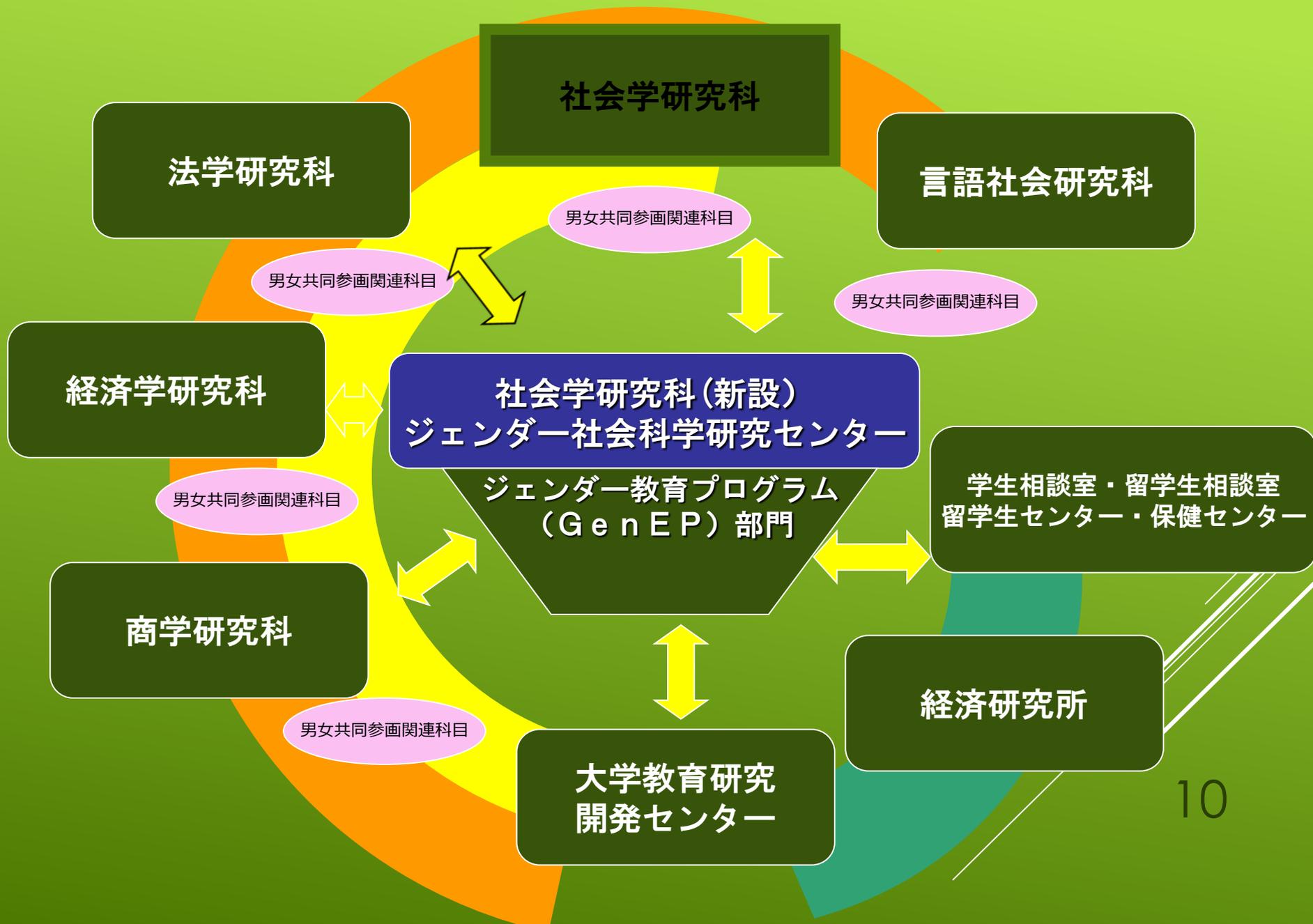
②GenEP部門

③研究交流部門

当初6年間（2007～2012）も毎年大学戦略経費を獲得
ジェンダー教育プログラムの制度化・高度化に向けて

（8年間で大学から獲得した資金は総計約2000万円）

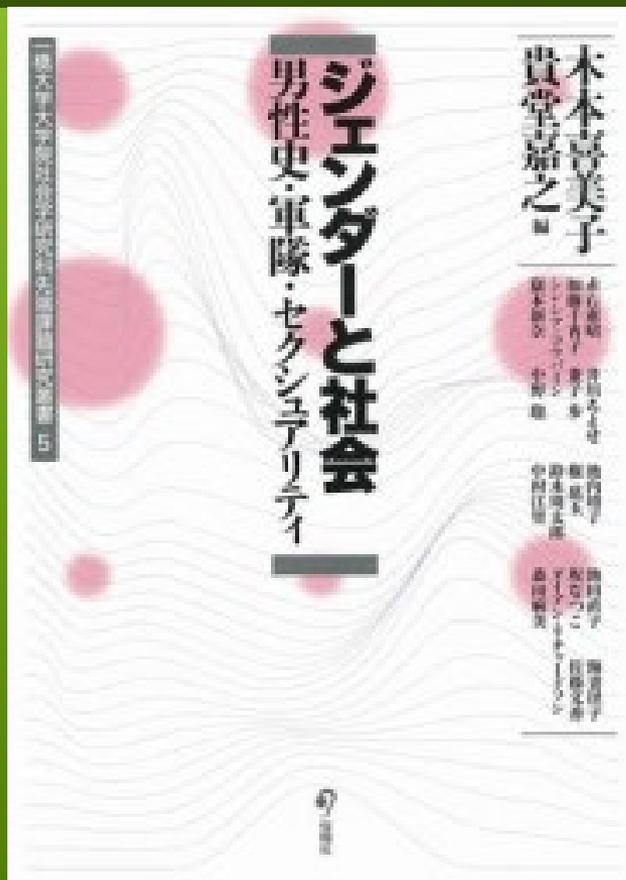
ジェンダー社会科学研究センターの当時の構想図



CGraSS 三つの部門

①**研究部門** 大学院授業「先端課題研究」（教員と院生との3年間の共同研究プロジェクト）を基盤に教育・研究

2006年～2008年先端研7「日常実践/方法としてのジェンダー」



2014年～2016年 先端研14「ジェンダー研究の過去・現在・未来-女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に-」が現在進行形。
日本を主たる活動拠点としつつ、(1)女性学の立ち上げ、ならびに(2)社会科学の各専門領域でジェンダーやセクシュアリティの視角をとりいれた研究の開拓に取り組んでこられたパイオニア的研究者に対して聞き取り調査を実施し、これを通じて、ジェンダー社会科学の到達点と現下の課題群を確認し、今後のあり方を展望するものです。

2014年～2016年先端研14「ジェンダー研究の過去・現在・未来ー女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」

ジェンダー研究を 継承する

Inheriting Gender Studies

Fumika Sato / Ruri Ito

佐藤文香・伊藤るり=編

原ひろ子
井上輝子
金井淑子
上野千鶴子
江原由美子
伊藤公雄
木本喜美子
勝方「稲福恵子
鄭映恵
もろさわようこ
伊藤康子
加納実紀紀代
西川祐子
有賀夏紀
荻野美穂
宮城晴美
金富子
坂元ひろ子
鹿野政直
池上千寿子
村瀬幸浩

ジェンダー研究の「パイオニア」たちは、どのように学問の道を志し、課題を探究してきたのか。研究中の困難や研究への思い、運動や政治との関係も絡め、後継世代が先達21人に果敢に問う。世代や領域を横断する対話を通じて研究の根幹を継承し、現代的課題を見出すに至る、類例なきインタビュー集。

人文書院

[一橋大学大学院社会学研究科先端課題研究叢書]

後継世代が先達21人に聴く 激動の時代のライフストーリー

日本を主たる活動拠点としつつ、(1)女性学の立ち上げ、ならびに(2)社会科学の各専門領域でジェンダーやセクシュアリティの視角をとり入れた研究の開拓に取り組んでこられたパイオニア的研究者に対して聞き取り調査を実施し、これを通じて、ジェンダー社会科学の到達点と現下の課題群を確認し、今後のあり方を展望するものです。

第1部 新しい学問の創出—女性学・男性学・ジェンダー研究

はじめに 佐藤 文香

総説 佐藤 文香・森 千香子

第1章 原 ひろ子 佐藤 文香・伊藤 るり

第2章 井上 輝子 跡部 千慧

第3章 金井 淑子 五十嵐 舞

第4章 上野 千鶴子 山崎 智慧子・関根 里奈子・佐藤 文香

第5章 江原 由美子 関根 里奈子

第6章 伊藤 公雄 徳安 慧一

第7章 木本 喜美子 渡邊 綾

第8章 勝方=稲福 恵子 藤浪 海

第9章 鄭 暎恵 田口 ローレンス 吉孝

- ▶ (1)学問の道を志すきっかけや経緯
- ▶ (2)関連課題を探究するようになったプロセス
- ▶ (3)研究途上での困難とその克服
- ▶ (4)関連分野の研究活動に対する思い
- ▶ (5)研究と運動や政治との関係

院生がパイオニアにインタビューをしてまとめ。
世代間交流、ジェンダー
研究の継承 13

第Ⅱ部 歴史を拓くー女性史・男性史・ジェンダー史

- 総説 貴堂 嘉之
- 第10章 もろさわ ようこ 浦田 三紗子
- 第11章 伊藤 康子 井上 直子
- 第12章 加納 実紀代 平井 和子
- 第13章 西川 祐子 井上 直子・佐藤 文香・平井 和子
- 第14章 有賀 夏紀 三好 文・貴堂 嘉之
- 第15章 荻野 美穂 大庭 万里奈
- 第16章 宮城 晴美 青野 桃子
- 第17章 金 富子 青野 桃子・田口 ローレンス 吉孝・藤浪 海
- 第18章 坂元 ひろ子 上村 陽子
- 第19章 鹿野 政直 中村 江里

第Ⅲ部 個に寄り添うーセクソロジーからヒューマンセクソロジーへ

- 総説 坂 なつこ
- 第20章 池上 千寿子 大島 岳・坂 なつこ
- 第21章 村瀬 幸浩 横山 陸
- おわりに ジェンダー研究の<継承>と当事者性の獲得 伊藤 るり

CGraSS 三つの部門

②GenEP部門 全国的にもユニークなジェンダー教育プログラム策定の試み

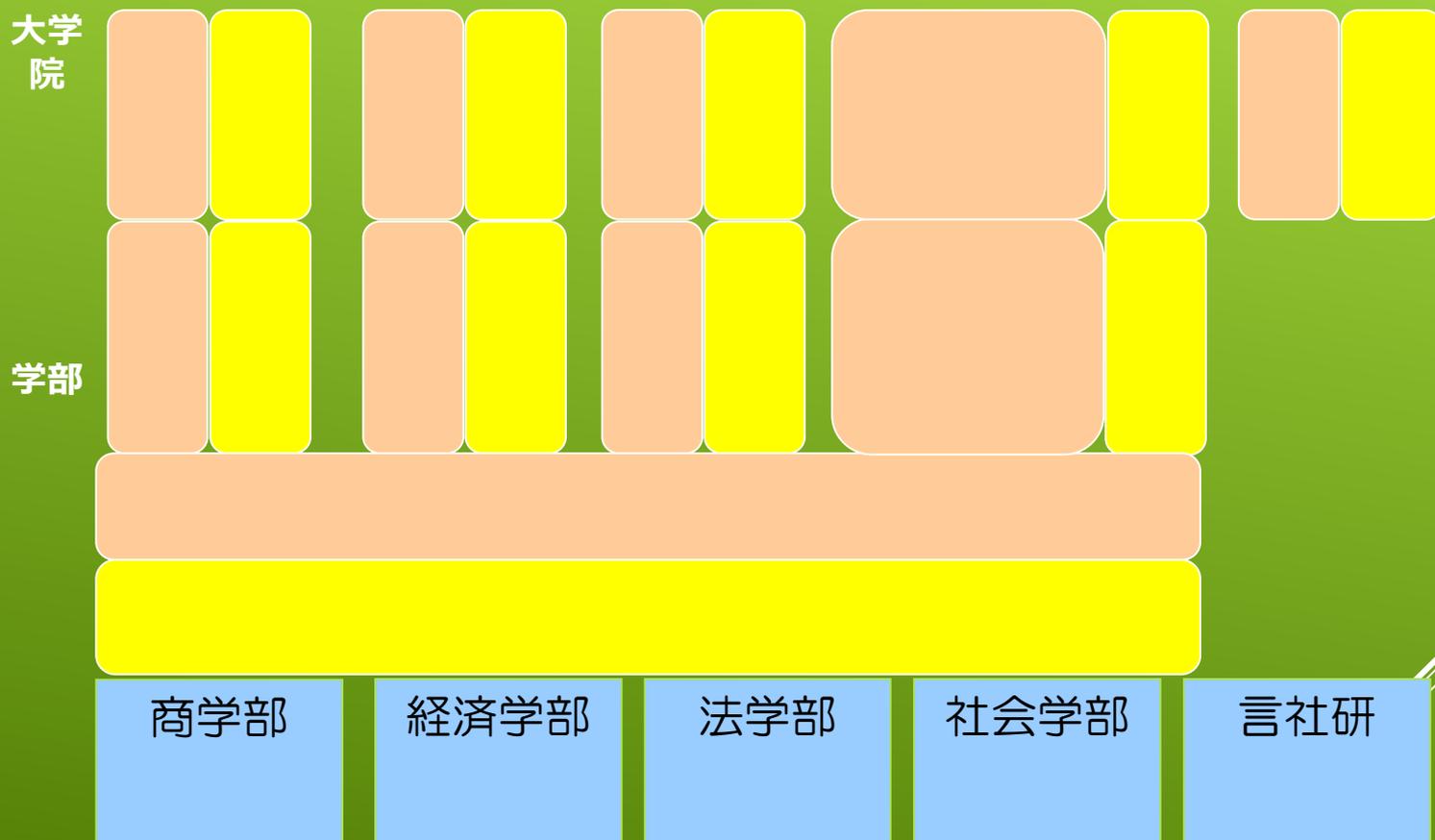
➤一橋大学らしい教育プログラムの設計

- 1) これまでのジェンダー教育:主に女子大の女子学生向け
⇒男女共学の本学にふさわしい「男女共同参画のかたち」の模索
- 2) 「市民の学である社会科学の総合大学」としての一橋大学の歴史と伝統を活かし、社会科学のなかにジェンダー視点を導入する総合的で学究的な試み

* 『研究教育憲章』

- ✓学際的な社会科学の研究を積極的に推進する
- ✓理論と実務的研究、基礎的研究と先端的研究を等しく重視
- ✓市民社会、産業界、官界との連携、社会の課題に的確に応える

3) 体系的なカリキュラムの模索：
全学共通教育から大学院教育までが、ゆるやかなスロー
プ状に連なる一貫教育



GenEP科目群

連携科目群

基幹科目群

大学院

● 人材マネジメント

● 労働経済学Ⅰ
○ 歴史学と地域研究

● 地球社会情報論
● 社会人類学
● 地球市民論
● 先端課題研究Ⅶ
● 地球社会と生命
● 平和社会論
● アメリカ研究

● ジェンダー関係論／社会学
● 社会学／地球市民とジェンダー
● 社会科学のなかのジェンダー
● ジェンダーと社会

● 欧米言語文化論

学部

● 地球研究の方法
(基礎)

● ジェンダーと法
(発展)

● 教育の歴史 (基礎)
● 社会心理学Ⅰ (基礎)
● 社会学理論 (基礎)
● 環境教育学 (発展)
● 教育研究法 (発展)
● 社会調査特問 (発展)
● 家族社会学 (発展)
● アメリカ社会史総論 (発展)
● 社会研究入門ゼミ

● 労働とジェンダー
● ジェンダー研究特論
● ジェンダーと社会

授業でのジェンダーの扱い

4

3

2

1

● 共通「教育と経済」

○ 共通「人類学」

●● 共通「地球社会研究」

●● 共通 (社) 総合科目「ジェンダーから世界を読む」

○ 共通 (運動文化) 発展科目「ヒューマン・セクソロジー」

○ 共通 (法) 総合科目「人文・思想」・「ジェンダーと心理学」

●● 共通 (如水会) ・寄附講義「キャリアデザインとジェンダー」

● 授業全体

● 3～5回

● 1～2回

● ひとつの柱として

● オムニバス形式

商学部

経済学部

法学部

社会学部

言社研



男女共同参画社会実現に向けた 全学的教育 プログラム

GenEP

履修ガイド 2007年度版

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょう。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まるジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは?

(Gender Education Programの略)

私たちの大学では、2005年度より「一橋大学における男女共同参画社会実現に向けた全学的教育プログラムの策定」(GenEP)プロジェクトを始動しました。これは、社会学部の教員が全学の教員と連携しながら、男女共同参画社会実現に向けた本学ならではのジェンダー教育プログラムの策定を目指した活動です。このGenEPプロジェクトの2年間の活動をへて、いよいよ2007年度から新しいジェンダー教育のプログラムが始まります。共学の大学として男子学生・女子学生が肩を並べて男女共同参画社会に向かう時代のトレンドを学び、相互の課題を受けとめあうことはとても大事なことです。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から学部・大学院科目まで体系的に組まれたこのジェンダー教育プログラムの第一期生として、積極的に授業に参加されることを期待します。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
マーキュリータワー 6階 3617
<http://www.soc.hit-u.ac.jp/gep/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気付き、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、修正しながら進んでいってください。

目指す
目標ゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ? 連携?

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいけるカリキュラムがとられています。

キャリアデザイン?

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずで。

労働・経営・ジェンダー?

2005年に行われた「一橋大学における男女共同参画に関する学生の意識・実態調査」で多くの学生から受講希望のあった「労働とジェンダー」、「経営とジェンダー」をテーマとした講義が新設されています。ジェンダーをより身近にとらえ、自らのキャリアデザインを具体的に描いてみてください。

新しい社会科学?

それぞれの専門的知見を深め研究を進展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

進路を考える際、「女性の働く環境」ということをより意識して考えるようになった。

知らないうちに自分も「男とはこつおるべき」という考えを持ってしまったことに気付いた。

未知の世界を見せてもらった。もっと相手のことを知りたいと思った。

それまで感じていたものが、それを言い当ててもらった感じがしたからだと感。

どうだったのかと気付いた。というのも、自分の中にもやっぱり差別的な感情はある程度あって、

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。

学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室 本館1階 「いまここ」HP

<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/index.htm>

■キャリア支援室 本館1階

■キャンパスライフ相談室 第1講義棟1階東側

セクシュアル・ハラスメントガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/guideline.htm>

相手の望まない性的な言動やジェンダー(性別)役割を押しつけることはセクシュアル・ハラスメントになります。一橋大学はその防止と排除のための措置、また問題が生じた場合の適切な措置のためのガイドラインを定めています。

基幹科目群

男女共同参画時代のキャリアデザイン

新設

コーディネーター：西山昭彦所長(東京ガス西山経営研究所)
共通・冬/木4 オムニバス形式

人生設計までもを含む豊かなキャリアデザインを構想するための、基礎的な知識、社会や企業の理解の仕方、考え方を学ぶ場を提供します。社会で活躍する本学卒業生を中心に、官公庁で男女共同参画推進にかかわっている方に行政の支援策の現状を、また企業で実践している経営トップ、人事部、管理職の方々に、その企業独自の取組みと実践、課題を話していただきます。(育休取得キャリア官僚、電通役員、女性経営者・管理職、倉田真由美、ホストクラブ代表などが講師として教壇に立ちます。)

ジェンダーから世界を読む

コーディネーター：中野知律
共通・冬/水2 オムニバス形式

複数の言語文化圏において、さまざまな視点とテーマのもと「ジェンダーから社会を読む」試みを展開します。言葉・宗教・歴史・地理的環境・社会組成が異なる現実を読み解くうえで、「ジェンダー」という視角あるいはファクターを考慮に入れるとはどういうことなのか、多様な情勢や理念・思想の問題提起を踏まえながら検討していきます。ジェンダーをめぐる異文化交流の輻輳をおおいに楽しんでください。

ヒューマン・セクソロジー

村瀬幸浩
共通・夏/火2

男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性(Sexuality)の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学びなおすとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。

ジェンダーと心理学

柘植道子
共通・冬/木3

社会における性別の持つ意味や問題に心理学の視点からアプローチします。心理学の理論のなかでジェンダーはどのように捉えられ、研究されているのか。ジェンダーとメンタルヘルスにはどのような関係があるのかについて学んでいきます。

ジェンダーと法

司法や法学における性差についての種々の偏見を明らかにし、既存の法律・学説・判例等を再検討します。

以上8科目2007年度開講

ジェンダーと社会

ジェンダーとは何かをとらえ直し、家族・労働・性愛・暴力などのテーマ別にジェンダー視角から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

ジェンダー論

現在のジェンダー研究において大きな位置を占めているポスト構造主義のジェンダー理論について、構造主義からポスト構造主義にいたる現代思想の潮流の中で理解することを目的とします。

家族社会学

木本喜美子
社・発展/大学院 夏/木3

現代家族がかかえる問題を明らかにするためには、家族の歴史変動過程を把握する必要があります。何ごとによらず「ものすべてに始まりがあれば終わりがある/私たはいつかのあたり？」(茨木のり子詩集)と問いつながら、ジェンダー・アプローチにもとづく家族変動論を展開します。人間関係における親密性に関心が集まる現代社会がいかに形成されたのか、じっくりと考える機会を提供します。

労働とジェンダー

新設

コーディネーター：木本喜美子
社・発展/大学院 冬/金3 オムニバス形式

現実の労働・仕事の場面で起こっている諸問題をジェンダーの視点からとりあげます。たとえば、若者就労問題、過労死問題、差別・人権問題、労働市場、企業組織、労働組合、グローバル化、ワーク・ライフ・バランス、企業の社会的責任など。社会変動に対する的確な認識・分析力、男女共同参画の視点を兼ね備えた専門的職業人に必要な力量形成をめざします。社会学部、商学部、法学部教員(久富善之、加藤哲郎、伊豫谷登士翁、阪口正二郎、高田一夫、守島基博、林大樹、谷本寛治ほか)のコラボレーション。

社会科学のなかのジェンダー

新設

コーディネーター：貴堂嘉之
社・大学院 夏/木2 オムニバス形式

ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新しい可能性を切り拓くことを目的に、既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させ、学際的かつ先端的な研究の創造をめざします。オムニバス授業の講師は、井川ちとせ、伊藤るり、伊豫谷登士翁、岡崎彰、木本喜美子、小井土彰宏、佐藤文香、多田治、柘植道子。

社会学/地球市民とジェンダー

木本喜美子
社・大学院 夏/金2

現代日本では、格差社会の進行や社会の二極分化という問題が議論されています。社会分析において、ジェンダーと階級との交錯関係をいかにとらえさるべきかという課題は、ますます重要なものとなってきています。本講義では、このジャンルの実証分析として評価の高いテキストを取り上げ、そこの分析方法について考察していきます。

2007年度 連携科目群

全学共通科目

- 夏/火2 地球社会研究 ……落合一泰・宮地尚子他
- 夏/木2 人類学 ……岡崎 彰
- ◆ 夏/木2 教育と経済Ⅰ ……松塚ゆかり
- 夏/金3 まちづくり ……林 大樹・横田雅弘
- 冬/月4 各国文学論(アメリカ文学史)Ⅰ ……越智博美
- ◆ 冬/木2 教育と経済Ⅱ ……松塚ゆかり
- 冬/水2 アメリカ研究入門Ⅰ ……三浦玲一
- 冬/木4 各国文学論(イギリス文学原典講読)Ⅰ ……井川ちとせ
- 冬/金3 外国語上級(リーディング)Ⅰ ……中井亜佐子
- 冬/金3 まちづくり ……林 大樹・横田雅弘

学部

- 商 冬/水2 消費文化論 ……越智博美
- 経 夏/木2 地域研究方法論 ……加藤 博・佐藤 宏
- 社 夏/火2 社会人類学総論 ……石井美保
- 社 夏/火2 ヨーロッパ社会史総論 ……阪西紀子
- 社 夏/火4▲ 社会文化論原典講読 ……井川ちとせ
- 社 夏/水2 社会学理論 ……多田 治
- 社 夏/木2 教育研究法 ……木村 元
- 社 夏/木3 宗教社会学Ⅰ ……深澤英隆
- ◆ 社 夏/木3 社会史料講読Ⅲ ……貴堂嘉之
- 社 夏/金3 社会心理学Ⅰ(社会的分野) ……安川 一
- 社 夏/金3 教育の歴史 ……関 啓子
- ◆ 社 冬/月2▲ アメリカ社会史特論 ……貴堂嘉之
- ★ 社 冬/木3▲ 社会調査特問 ……木本喜美子
- 社 冬/金1 教育社会学 ……中田康彦
- 社 冬/金3▲ 環境教育学 ……関 啓子

大学院

- 商 冬/火1 人材マネジメント ……守島基博
- 経 夏/火3 労働経済学Ⅰ ……川口大司
- 経 夏/木2 地域研究概論 ……加藤 博・佐藤 宏
- ◆ 社 夏/月2 アメリカ研究 ……貴堂嘉之
- 社 夏/月2 地球市民論 ……関 啓子
- ◆ 社 夏/水2 平和社会学 ……宮地尚子
- ★ 社 通/金5 先端課題研究7

「日常実践/方法としてのジェンダー」
……コーディネーター 木本喜美子・貴堂嘉之

- 社 冬/火1 情報行動文化論 ……ジョナサン・ルイス
- ◆ 社 冬/火2 地球社会情報論 ……多田 治
- 社 冬/火4 文芸思想研究 ……井川ちとせ
- ◆ 言 冬/水2 欧米言語文化論(英語圏Ⅲ) ……中井亜佐子

● 講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げ方の目安 ●

- ★講義全体をジェンダーの視点から構成する
- ◆ジェンダーを講義の一つの柱とする
- ジェンダーについて1、2回取り上げる2007年度連携科目群

※▲は学部・大学院必修。委細は各授業のオリエンテーションで確認してください。また履修登録の際には、学習計画ガイドブック(学部)・学生便覧・講義要項(大学院)に従ってください。

…来年度以降は新たに科目が加わる予定です

最初のプログラム作成するときには

- ・ 学生アンケート（2005年10月）
- ・ 教員ポテンシャル調査（2006年4-5月）
- ・ 院生ヒアリング（2006年6-7月）

→多様な意見を取り入れ、学生・院生のニーズと教員側のポテンシャルを把握

→閉じたジェンダー学ではなく、開かれた学際性、社会科学との融合の模索 教員の「ジェンダーの壁」を取り除く

以後、カリキュラム改善、新規科目の開設を続けている

（例）ジェンダーと人権（辻村みよ子）2013～

社会や法におけるジェンダー、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点（ジェンダー人権論）からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画（ジェンダー平等）の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・学術分野等の領域ごとに具体的に検討します。



一橋大学

ジェンダー教育プログラム

GenEP

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょう。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは？

(Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会学研究センターを開設し、毎年およそ50科目、延べ4000名の学生・院生みなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供しています。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会学研究センター内GenEP部門

<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指すゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へと積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいくカリキュラムがつけられています。

キャリアデザイン

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはず。

多様なセクシュアリティ

ジェンダーとセクシュアリティを切り離して考えることはできません。人間の性のあり方とその多様性を知るとは、自分自身の生き方を考え、周りの人の生き方を尊重するためにも不可欠です。

新しい社会科学

それぞれの専門的知見を深め研究を進展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、これほど学問的に深く考えたことはなかった。新しい思考法を身につけられた気がする。

自分の中の偏見や先入観の存在に気づくことができた。ちまたにあふれる性に関する情報を批判的に見るができるようになった。

大学の中にも「男は」「女は」という言説があふれている。たくさんの学生、特に男子学生に、受けてほしいと思った。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。
学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室
第2講義棟1階西側「いまここ」HP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

■ハラスメント相談室 第1講義棟1階東側
<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/soudan.html>

■キャリア支援室
本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html

ハラスメント防止ガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/harassment/pdf/guideline.pdf>
ハラスメントとは、人間としての尊厳を侵害する行為であり、人に対する思いやりと敬意を欠いた行為です。一橋大学は、すべての学生と教職員の人権が尊重され、ハラスメントを受けることなく、本学において修学・教育・研究し、就労することができる環境を享受できるよう努め、ガイドラインを定めています。

学部 基幹科目群

ジェンダーと社会

【社・基礎・夏・0D】

佐藤文香

ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマごとにジェンダー視覚から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

ジェンダー史特論

【社・発展※・夏・集中】

田中亜以子

歴史的なアプローチによってジェンダーを探究する「ジェンダー史」の領域を学びます。ジェンダー史という領域が成立していった背景を論じるとともに、日本における「性別」観念の歴史の変容について詳しく議論します。

Gender and Japanese Society

【社・発展※・秋冬・月2】

田中亜以子

「ジェンダー史」の重要先行研究を英語で輪読し、ディスカッションを行う授業です。ジェンダー史研究は、ジェンダー分析を行う上での重要な枠組みや理論を多く産出してきました。原典に直接ふれ、ジェンダー分析について考えを深める機会を提供します。

ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン

【社・導入・秋冬・月2】

太田美幸・神谷悠一

性の多様性をめぐる現代社会の状況を理解し、大学で学ぶジェンダーやセクシュアリティについての知見を生徒にわたる社会生活や職業生活にいかんにか活かしていくか、社会環境にいかんにかして働きかを実践的に考えます。LGBTQ+フレンドリーな学内環境づくりを目指す「一橋プライドフォーラム」と連携しています。

ジェンダーと人権

【共通・秋冬・月3】

榎塚康江・谷田川知恵

社会や法におけるジェンダー(性差)、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点(「ジェンダー人権論」)からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画(ジェンダー平等)の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・身体・学術分野等の領域ごとに具体的に検討していきます。

ジェンダーとセクシュアリティの心理学

【社・発展※・春夏・月1】

柘植道子

心理学の視点からジェンダーとセクシュアリティにアプローチします。具体的には、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性別役割態度、性差、インターセクショナルリティ、心理学研究におけるジェンダーバイアスなどを扱います。

ヒューマンセクソロジー

【共通・秋冬・月6】

門下祐子

人は誰でも、障害の有無等に関わらず、「性の権利」の主体者です。セクシュアリティやジェンダーといった「性」について学び、あなた自身の生き方のみならず、広く社会に生きる人々の「性」そして「性の権利」を尊重した社会のあり方について共に考えましょう。

学部 連携科目群

全学共通教育科目

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
○	共通	春夏・木2	教育と経済	松塚ゆかり
◎	共通	秋冬・木2	教育と経済開発	松塚ゆかり
○	共通	秋冬・月2	台湾の歴史と社会	洪郁如
○	共通	春夏・月2	古典講読入門(歴史学)C	洪郁如
◎	共通	秋冬・月4	英語圏地域文化論A	中井亜佐子
◎	共通	春夏・火3	教養ゼミナールA	川本玲子
○	共通	春夏・火2	英語(リーディング・基礎強化)I	川本玲子
○	共通	春夏・火4	英語(リーディング・基礎強化)I	川本玲子
○	共通	秋冬・火2	英語(リーディング・基礎強化)I	川本玲子
○	共通	秋冬・火4	英語(リーディング・基礎強化)I	川本玲子
○	共通	秋冬・0D	現代思想	末永絵里子

学部

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
★	社・導入	秋冬・金3	社会学入門ゼミ	佐藤文香
○	社・発展※	秋・月木3	社会福祉	白瀬由美香
○	社・基礎	春・月木3	社会政策総論	白瀬由美香
★	社・発展※	夏・0D	アメリカ史特論A	貴堂嘉之
○	社・基礎	秋・0D	政治思想	田中拓道
○	社・導入	夏・0D	社会学概論	多田治
○	社・基礎	冬・0D	社会学理論	多田治
○	法・基礎	春夏・金5	民法(家族)	石綿はる美
◎	社・導入	秋・0D	社会科学概論II	太田美幸
○	社・基礎	冬・0D	教育の歴史	太田美幸
○	社・導入	冬・集中	まちづくりとコミュニティ・ビジネス	太田美幸
★	社・発展※	秋冬・火4	社会文化論原典講読B	井川ちとせ
○	法・基礎	秋冬・月水2	国際私法	竹下啓介
○	社・基礎	冬・火金1	日本史総論A	石居人也
◎	社・基礎	冬・0D	雇用関係総論	西野史子
○	社・基礎	春夏・月4	国際社会学 I A	飯尾真貴子
★	法・発展	春・月木1	ジェンダーと法	相澤美智子
○	法・基礎	秋冬・火金3	憲法(総論・人権)	江藤祥平
○	社・基礎	夏・火金3	教育の社会学A	山田哲也
○	社・基礎	冬・0D	スポーツ社会学の基礎	坂なつこ
○	社・発展	夏・火金1	スポーツ文化論	坂なつこ
○	商	夏・火金1	原価計算	挽文字
○	商・発展	春・火金2	イノベーション・マネジメント	吉岡(小林)徹
○	商・発展	冬・月木1	流通	山下裕子

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

- ★: 講義全体をジェンダーの視点から構成する
- ◎: ジェンダーを講義の一つの柱とする
- : ジェンダーについて1,2回取り上げる

※は学部・大学院共修

◎はオンデマンド(録画)配信

最新情報および委細は各授業のシラバスで確認してください。また履修登録の際には、学士課程ガイドブック(学部) / 学生便覧(大学院)に従ってください。

大学院

◆基幹科目◆

地球社会研究の基礎A

【社・春夏・金2】

佐藤文香・貴堂嘉之・田中亜以子

既存の社会科学 / 人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義です。

ジェンダー史の方法

【社・春夏・月2】

田中亜以子

ジェンダーの視点から歴史を分析するとは、具体的に何を分析することを指すのでしょうか。そして、どのような分析をしたらジェンダーを分析したことになるのでしょうか。本授業では、ジェンダー史という領域の発展とともに開拓されてきた、歴史的視点からジェンダーを考察するための、さまざまなテーマや方法論を吟味します。

◆連携科目◆

頻度	研究科	曜日・時限	講義名	担当者
○	社	秋冬・金2	アメリカ研究	貴堂嘉之
○	社	春夏・月4	社会科学研究の基礎A	多田治
○	社	秋冬・月4	社会学C	多田治
○	社	春夏・木4	文化生成研究	洪郁如
○	法	春夏・金2	発展ゼミ I (民法)	石綿はる美
○	社	春夏・火3	教育の社会史	太田美幸
◎	言社	春夏・金2	英語圏文学A	川本玲子
★	言社	春夏・月3	表象芸術論	井上間從文
★	法	秋冬・水2	Special Case Study on Theories of IR(Gender and IR)	前田眞理子
◎	社	春夏・水2	地球社会と共生	宮地尚子

CGraSS公開レクチャー・シリーズ

ジェンダー研究の新しい方法を模索し、社会科学の手法との融合をいかにして果たすのか。社会学研究科内に設置されているジェンダー社会科学研究センター(CGraSS)では、この課題にこたえるため、さまざまな研究領域の専門家のゲスト報告者を招いて、公開レクチャー・シリーズを展開しています。また、シンポジウムの共催や合同研究会などを行い、教員・院生の相互交流を奨励・推進しています。

【参考】2022年度のCGraSS公開レクチャー・シリーズ

「民主主義の場としての家族——国家中心的政治像の再検討」

2022年5月13日

講師：田村哲樹さん(名古屋大学大学院法学研究科・教授)

「難民とセクシュアリティ—アメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除」

2022年10月14日

講師：工藤晴子さん(神戸大学大学院国際文化学研究科・講師)

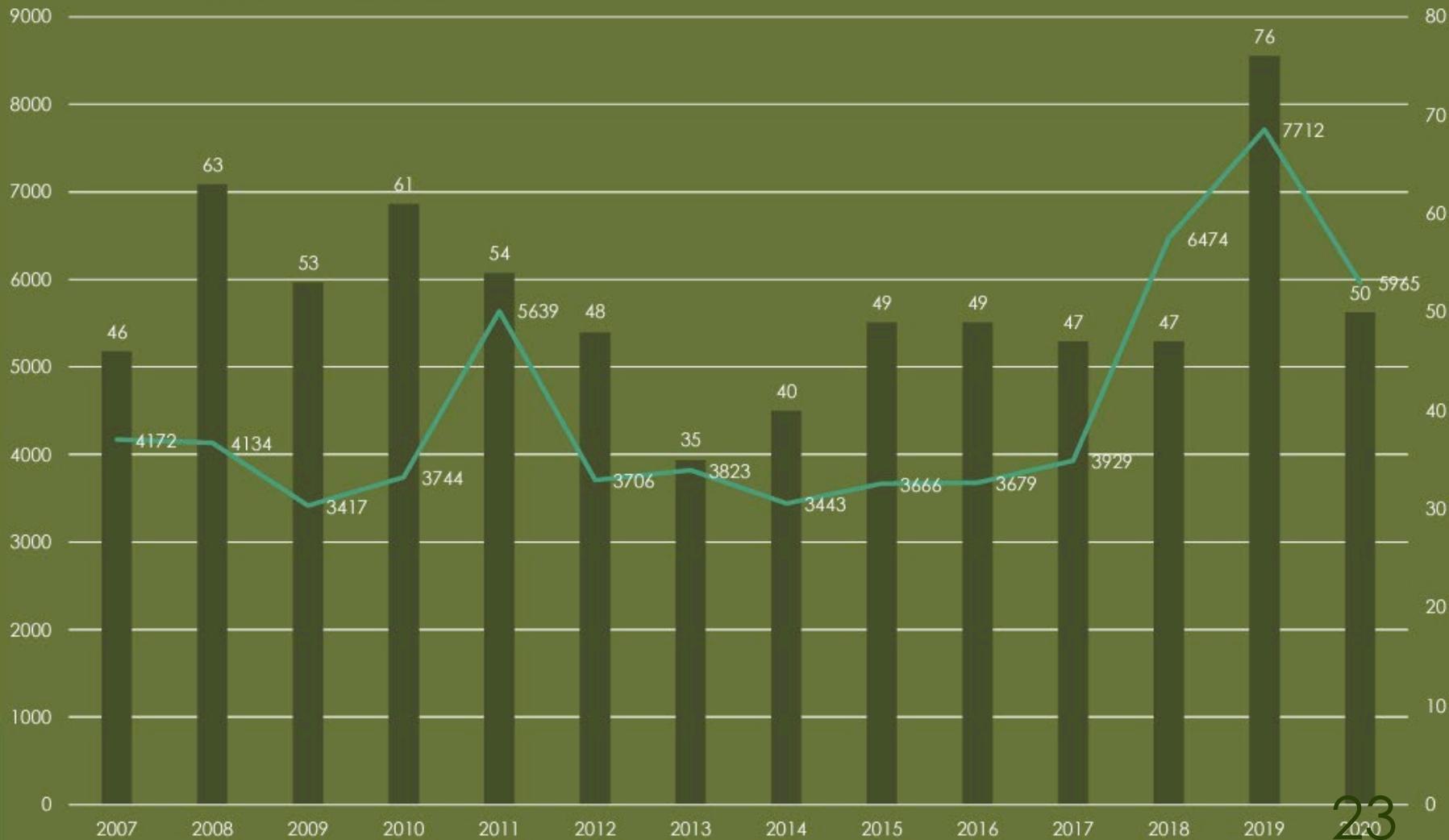
「ルッキズムとジェンダー—フェミニズム/ジェンダー研究における見直し/美」

2022年11月30日

講師：西倉美季さん(東京理科大学教養教育研究院・准教授)

ジェンダー教育プログラム 2007-2020

■ 科目数 — 履修者数



CGraSS 三つの部門

③研究交流部門 他大学のジェンダー研究センターとの連携、シンポジウムの共催、合同研究会。公開レクチャーシリーズの開催

第1回 2007年11月28日 酒井順子「オーラル・ヒストリーとジェンダー研究－イギリスにおけるオーラル・ヒストリーの展開を振り返って」

第2回 2008年1月25日 中谷文美 「フィールドワークの「ジェンダー化」をめぐって-ジェンダー人類学の視点から」

第3回 2008年6月13日 姫岡とし子 「領域分離とジェンダー史研究」

第4回 2008年11月28日 岡野八代 「フェミニズムとリベラリズムの拮抗-新しい〈家族〉の可能性」

第5回 2008年12月9日 新城郁夫 「"ホモエロティシズム"とポストコロニアル沖縄の関係」

第6回 2009年1月30日 陳昭如 「台湾女性の相続権をめぐるジェンダー・ポリティクス」

第7回 2009年4月28日 キャロル・エンズ 「ジェンダーと女性心理学の功績と課題-今、何に注目をすべきか」

第8回 2009年7月17日 シンシア・コウバーン 「戦争とジェンダー-フェミニストによる根源的問い直し」

第9回 2009年11月6日 川橋範子 「宗教とフェミニズムの不幸な関係？-バックラッシュを超えて」

第10回 2009年12月18日 牟田和恵 「ジェンダーと家族の可能性」

第11回 2010年6月18日 ジャクリーン・アンドール 「イタリアのフェミニズム-「家事労働に賃金を」から「プレカリアート」へ」

第12回 2010年10月20日 游鑑明 「広告とアートからみた近代中国の女子スポーツ」

第13回 2011年2月4日 村瀬幸浩 「性と愛をめぐる不安と学び-大学生たちの今-」

第14回 2011年6月24日 エレナ・ヒラタ 「ジェンダー、労働、ケア-25
ンスの研究動向」

- 第15回 2011年7月15日 包英華 「20世紀前半のモンゴル族（内モンゴル）女性の伝統と現代」
- 第16回 2012年1月20日 北原恵 「「人間天皇」の表象-「天皇ご一家」像から見えるもの」
- 第17回 2012年5月31日 キャサリン・チョイ Filipino Nurse Migration: Histories, Geographies, and Ethics
- 第18回 2012年12月14日 鄭暎恵 「外国人女性たちの3.11「以前・以後」と改定入管法」
- 第19回 2013年1月18日 足立眞理子 「金融化された資本主義とジェンダー -新しい収奪のかたちを問う」
- 第20回 2013年6月19日 ナシラ・ゲニフ=スイラマ 「フランス・フェミニズムの両義性と隘路」
- 第21回 2013年7月5日 マイク・ベルナルド 「「不法移民」収容キャンプ内部のジェンダー構造」

第22回 2013年10月25日 申琪榮 政治的代表的制とジェンダー—韓国的女性大統領をめぐる—

第23回 2013年11月15日 柘植あづみ 生殖技術と社会—不妊治療と再生医療がもたらしたもの

第24回 2013年12月9日 シンシア・エンロー 「フェミニスト魂を捨てずに、研究者としてのキャリアを追求できるか？」

第25回 2014年1月20日 徐阿貴 「<サバルタン女性>はいかにして公共圏の担い手となりうるか？—在日朝鮮人女性による夜間中学独立運動から」

第26回 2014年2月27日 木本喜美子 「<家族と企業社会>をジェンダーでつなぐ」 坂元ひろ子 「中国近現代思想文化史研究とジェンダー」

第27回 2014年6月13日 宜野座菜央見 「モダン・ライフ映画が提起するもの—見えない中国・日本社会の二重構造」 晏妮 「越境する映画、引き裂かれた表象—戦時日中映画交渉に見るジェンダー」

第28回 2014年11月21日 平井和子 「日本占領とジェンダー—米軍・売買春と日本女性たち」 茶園敏美 「パンパンとは誰なのか—キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性」

第29回 2014年12月12日 村瀬幸浩 「いま、男子の性は一私は大学生に何を学ばせようとしたか」

第30回 2015年2月2日 青山薫 「親密な関係に関する市民権-異国籍同性カップルが日本で子どもを産み育てる場合」

第31回 2015年4月24日 ガベバ・バデルーン 「南アにおける奴隷制、イスラム、そして人種と性の構築」

第32回 2015年6月24日 メリッサ・ライト 「麻薬政治、死政治、女性殺人—メキシコからの教訓」

第33回 2015年7月5日 サミア・シャラ、アブデラリ・アジャット 「ヴェールの政治学-ジェンダー・身体・植民地主義」

第34回 2015年10月23日 上野千鶴子 「何を怖れる—フェミニズムを生きた女たち」

第35回 2016年6月17日 多賀太 「錯綜する〈男らしさ〉のポリティクス—プロ・フェミニスト運動の可能性と課題」

第36回 2016年7月6日 竹山明子 「誘惑の舞台：夢を売る商売—東京ホス28トクラブ」

- 第37回 2016年10月14日 イルゼ・レンツ「現代ドイツにおけるフェミニズムと反フェミニズム運動」
- 第38回 2016年11月18日 遠藤まめた、松岡宗嗣「大学・教育とセクシャルマイノリティ (1) LGBT)-大学にできる支援について考えよう」
- 第39回 2017年5月12日 橋本恭子「台湾の同志 (LGBT)運動と文学ー東アジアの基層文化と性のあり方を考える」
- 第40回 2017年6月30日 上間陽子「『裸足で逃げる』の若者たちの生育環境・ネットワーク・暮らすこと」
- 第41回 2018年1月19日 伊藤るり「国際社会学とジェンダー研究の未来ー伊藤るりさんとともに考える」
- 第42回 2018年6月27日 中村江里「感情を管理される日本軍兵士たちー軍事化されたマスキュリニティと戦争神経症」
- 第43回 2018年9月21日 ザフラ・アリ「ポストコロニアル世界のイスラームと女性・ジェンダー」
- 第44回 2019年1月9日 鈴木聡子「ジェンダー、人種、文化ナショナリズムー外国人が話す日本語におけるジェンダー表現をめぐって」
- 第45回 2019年1月25日 平山亮「うろたえる男たちー女たちの告発に、私たちはいかに応えてきたか/応えるべきか」
- 第46回 2019年5月24日 長志珠絵「占領期神戸・エゴドキュメントとしての女性軍属の手紙を読む」
- 第47回 2019年7月3日 カール・ゲイブリエルソン「「サムライファンタジー」と「子ども扱い」ー日本文化を利用した在日米軍の軍事的男性性」

第48回 2021年4月28日 澁谷知美「なぜ包茎は恥ずかしいのかー男性間支配と女性差別を架橋する歴史社会学」

第49回 2021年7月21日 知念渉「<ヤンチャな子ら>の大人への移行と男性性」

第50回 2021年10月6日 久保田裕之「性愛規範と最小結婚ーシェアハウス研究との接点から」

第51回 2021年11月24日 千田有紀「離婚後の子の監護のあり方とジェンダー」

第52回 2021年12月3日 洪郁如「日本の台湾認識とジェンダー」

第53回 2022年5月13日 田村哲樹「民主主義の場としての家族ー国家中心的政治像の再検討」

第54回 2022年10月14日 工藤晴子「難民とセクシュアリティーアメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除」

第55回 2022年11月30日 西倉実季「ルッキズムとジェンダーーフェミニズム/ジェンダー研究における外見/美」

第56回 2023年6月30日 弓削尚子「西洋ジェンダー史とアグノトロジー」

今後の課題と展望：CGraSSの17年間を振り返って

▶**2012年の外部評価** 東北大学GCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」辻村みよ子教授による外部評価(2012年1月)：2007年設立から5年間の実績

1) 日本の大学カリキュラムのなかで、その多様性と社会科学との融合研究としての観点から最も優れたジェンダー教育実践

2) 継続は力なり、学生・院生へのプログラムの広報、プログラムの定着化・制度化の試みの必要性、**男女共同参画推進オフィスがないこと**の指摘 (→翌年2013年に設置へ)

▶**自己評価**：

1) GenEPでは授業数、履修者数の量的拡大は達成。**全国的にみても唯一無二のジェンダー教育プログラム**となったが、質的向上にはさらなる創意工夫が必要。社会学研究科以外の研究科の授業科目を増やしていく必要

2) 指定国立大学法人の申請要件、科研費の新規採択件数でジェンダー分野が貢献。ジェンダー研究の学術分野で学会長をつとめる者が複数。

3) 他大学のジェンダー・センターの取り組みを参考にした活動展開
居場所づくり、組織を担う次世代の養成 持続可能な組織となるために

4) さらなる学内の学生・院生に寄り添った施策、授業科目の開講

ロースクールの事件を受けて 新たな課題

学内のセクシュアル・マイノリティへの心のケア

再発防止のために LGBT理解、セクシュアリティ教育の見直し



ジェンダー社会科学研究センター

CENTER FOR GENDER RESEARCH AND SOCIAL SCIENCES

English



国立大学法人一橋大学
大学院社会学研究科

HOME

新着情報

CGraSSについて

研究部門

研究交流部門

GenEP部門

アーカイブ

LINK

本学法科大学院における事件の報を受けて

昨年8月に、一橋大学法科大学院に所属する学生が自らの性的指向を同級生に暴露され、大学からの適切なサポートを得られずに自死するというたましい事件が起こりました。亡くなられた前途ある学生に心から哀悼の意を捧げますと共に、ご遺族の方々に謹んでお悔やみを申し上げます。

この件については教授会等でもまったく報告されておらず、ほとんどの教員は8月5日の報道により初めてこれを知ったところです。ジェンダー社会科学研究センター（CGraSS）は、本学におけるジェンダー研究・教育を推進するため、2007年に社会学研究科付属研究センターとして創設され、その後、全学的な教員の参加を得て、今年度10周年を迎えました。この間、CGraSSでは公開講演会の開催等を通じて、セクシュアル・マイノリティへの理解を促す活動を積極的に進めてきました。また、本学ではセクシュアル・マイノリティを対象に含めたハラスメント・ガイドラインを制定しています。

それだけに、事件の報を受け、わたしたちは深い悲しみと怒りを感じています。自死に至った学生の苦悩とご遺族のお気持ち、また、この報道に接した学生の皆さんが感じているであろう恐怖や不安を思うと、やりきれない気持ちでいっぱいです。

今回のことで不安をおぼえている学生の皆さん、CGraSSは全力であなたたちをサポートします。本件に関して大学当局が誠実に対応するよう求めるとともに、このようなことが再び起こることのないよう、相談業務をはじめとするサポート体制の点検を行い、誰もが安心して学業・研究生活をおくることができる大学づくりのために尽力していく所存です。一人でも多くの皆さんがこの輪に加わってくださることを願っております。

2016年8月9日

ジェンダー社会科学研究センター（CGraSS）

⇒ LGBT理解、居場所づくり、ジェンダー・セクシュアリティ教育の見直し 32



2019年度秋冬学期 社会学部導入科目

**ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン
(プライドブリッジ寄附講義)**



設立呼びかけ文

一橋大学キャンパスを、LGBTQ学生・職員を 含むすべての人にとって安心・安全な場所に 変えるための、卒業生・在校生をつなぐネッ トワーク「PRIDE BRIDGE」賛同者フォーム

2015年6月、一橋大学法科大学院に通うひとりの男子学生が、同級生が参加する「LINE」グループにて、ゲイであることを暴露（アウトティング）されました。男子学生は心身の不調を訴え、大学のハラスメント相談室、担当教授、保健センターに助けを求めましたが、結果的に状況の改善がなく、同年8月24日に校舎から転落死しました。

翌年、遺された両親が同級生と大学を相手に損害賠償を求めて提訴した「一橋大学アウトティング裁判」ですが、一橋大学側が対応について落ち度はなかったと主張するなか、本日、2019年2月27日に判決をむかえようとしています（同級生とは、昨年和解が成立しています）。

判決の結果がいずれにせよ、二度と同じような悲しい出来事が一橋大学で起こらないように、まずは一橋大学の卒業生および在校生、LGBTQ当事者とアライが繋がるネットワーク「PRIDE BRIDGE」を立ち上げ、一橋大学キャンパスをLGBTQ学生を含むすべての人にとって安心・安全な場所にしていくための具体的なアクションを実施していきたいと考えています。

賛同者となって、ご協力をいただける一橋大学の卒業生の方は、下記のフォームに、①名前、②所属、③肩書き、④卒業学部・課程、⑤卒業年、⑥その他（メッセージなど）を記載ください。

なお、記載いただきました情報については、今後、WEB等に公開予定の賛同者リストへの掲載、および、準備委員会からの連絡の際に使用させていただきます。それ以外に使用することはありません。ご了承くださいますと幸いです。

<今後の具体的なアクション案>

- ・LGBTQ当事者とアライの学生が安心して集える「居場所」づくり
- ・LGBTQ当事者とアライの学生が相談できる「繋がり」づくり
- ・上記を実現するための資金や人的リソースの調達



一橋プライドフォーラム 始動！

一橋大学ジェンダー社会科学研究センター（CGraSS）は
2019年9月より、新プログラム「一橋プライドフォーラム」を開始します。
プライドフォーラムは、既存のジェンダー教育プログラム（GenEP）のフォローアップを
目的として、下記の活動を進めていきます。

1. ジェンダー/セクシュアリティをより深く学びたい学生のためのリソースセンターの設置・運営

- ジェンダー/セクシュアリティに関する文献・教材等の収集・提供
- 資料閲覧、および自主ゼミや小規模イベント等のためのコミュニティ・スペースの運営
- 学生による自主ゼミやイベント開催の支援
- 性の多様性についての理解促進を目的とする講義の開講

2. LGBTQフレンドリーな教育環境整備のための共同研究プロジェクト

- 学内の教育環境に関する実態調査
- ピアサポート事業
- 学生と教職員の定期的な意見交換会の開催
※2016年10月に発足した「学内の多様性を考える会」（旧称：セクシュアル・マイノリティについて考えるランチ会）の活動を継承するものです。

Gender 社会科学研究センターは、一橋大学大学院社会学研究科内に2007年4月に発足しました。
略称は、Center for Gender Research and Social Sciences の頭文字をとって CGraSS(シーグラス)です。
下記の三つを活動の柱としています。

- ① ジェンダー研究の推進
- ② 全ての学部を横断する体系的なジェンダー教育プログラムの提供
- ③ レクチャーシリーズやワークショップ等による学内啓発活動



「一橋プライドフォーラム」についてのお問い合わせは、下記までメールにてお願いします。
prideforum_cggrass@soc.hit-u.ac.jp

誰もが安心・安全に生きられる社会をつくるために 私たちは何ができるのか？

2019年度秋冬学期 新規開講科目

ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン (プライドブリッジ寄附講義)

水曜3限 本館26番教室

- | | | |
|-------------|--------------------|--|
| 第1回(9/18) | 「性の多様性」をめぐる現代社会の状況 | 講師：川口遼さん(プライドブリッジ) |
| 第2回(9/25) | 大学で学ぶ | 講師：一橋大学大学院生のみなさん
『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』著者グループ |
| 第3回(10/2) | 社会で活動する | 講師：松中権さん(プライドブリッジ会長/なくそう！SOGIハラ実行委員長) |
| 第4回(10/9) | 政治を変える | 講師：国会議員のみなさん(LGBTに関する課題を考える議員連盟) |
| 第5回(10/16) | 仲間とつながる | 講師：ソニア・テールさん(一橋大学元教員) |
| 第6回(10/23) | 司法を変える | 講師：中川重徳さん
(諏訪の森法律事務所・府中青年の家裁判原告代理人) |
| 第7回(10/30) | 制度を問直す | 講師：大江千東さん(LOUD 代表/同性婚訴訟東京原告) |
| 第8回(11/6) | 家族を支える | 講師：小林りょう子さん(NPO 法人ハートをつなごう学校) |
| 第9回(11/13) | 学生として動く | 講師：薬師実芳さん・杉山文野さん・神谷悠一さん(プライドブリッジ)
(早稲田大学金井景子研究室関係者) |
| 第10回(11/20) | 地域で動く | 講師：木山直子さん(くにたち男女平等参画ステーション) |
| 第11回(11/27) | 企業で働く | 講師：井上道博さん(株式会社丸井グループ) |
| 第12回(12/4) | 働く人を支える | 講師：井上久美枝さん(連合)・本多則恵さん(厚生労働省) |
| 第13回(12/18) | 全体討議 | |

全学部/研究科・全学年のみなさんの履修を歓迎します。

◆この科目は、「プライドブリッジ」(一橋大学卒業生と在学生、LGBTQ 当事者とアライのネットワーク)からの寄附金により運営される「一橋プライドフォーラム」の活動の一部として開講されるものです。「一橋プライドフォーラム」は、下記の2つに及びています。

- (1) ジェンダー/セクシュアリティをより深く学びたい学生のためのリソースセンター(西キャンパス第2研究館5階奥)の運営
- (2) LGBTQフレンドリーな教育環境整備のための共同研究プロジェクトの実施

◆運営に参加していただける学生のみなさんを常時募集しています。prideforum_cggrass@soc.hit-u.ac.jp までご連絡ください。



ジェンダー/セクシュアリティとライフデザイン 第4回授業「政治を変える」
に参加してくれた超党派の国会議員の方々（2019年10月9日）

2016年10月～

セクシュアル・マイノリティ について考えよう！

日時：10月12日（水）

12：00～13：00

場所：東本館113号室

途中からの参加もOK!

主催：ジェンダー社会科学研究センター
(CGraSS)・一橋大学教職員組合

誰もが安心して大学生活を送れるようにするために、
これから何が出来るかを一緒に考える会です。

セクシュアルマイノリティについて知りたい人、
疑問に思っていることや不安なことがある人、
みんなの考えを聞きたい人、語りたい人は、ぜひお越しください。
おひるごはんを一緒に食べながら、ゆるりと話をしましょう。

学生・職員・教員、誰でも参加できます。

セクシュアルマイノリティや教育のことなどを専門とする
教員がファシリテーターをつとめます。

秘密は守ります。

第1回は、10月12日（水）12：00～13：00です。
今後の進め方については、この日にみんなで一緒に考えたいと思います。

ランチを持参して、直接会場にお越しください。

問い合わせ：社会学研究科特任講師 ソニア・デール (sonja.dale@r.hit-u.ac.jp)
社会学研究科准教授 太田美幸 (miyuki.ohata@r.hit-u.ac.jp)

2017年7月～

学内の多様性を 考える会

日時：毎月、第2水曜日、

12：00～13：00

場所：磯野研究館
1階 小集会室

途中からの参加もOK!

主催：ジェンダー社会科学研究センター
(CGraSS)・一橋大学教職員組合

誰もが安心して大学生活を送れるようにするために、
これから何が出来るかを一緒に考える会です。

セクシュアリティ、ジェンダー、エスニシティ、
障がいなどと大学について考えたい人、
疑問に思っていることや不安なことがある人、
みんなの考えを聞きたい人、語りたい人は、
ぜひお越しください。
おひるごはんを一緒に食べながら、ゆるりと話をしましょう。

学生・職員・教員、誰でも参加できます。

セクシュアルマイノリティや教員のことなどを専門とする
教員やファシリテーターをつとめます。

秘密は守ります。

初めての参加の方も大歓迎です。

ランチを持参して、直接会場にお越しください。

問い合わせ：社会学研究科専任講師 ソニア・デール (sonja.dale@r.hit-u.ac.jp)
社会学研究科教授 太田美幸 (miyuki.ohata@r.hit-u.ac.jp)

37

2016年11月18日

2017年11月25日



一橋大学国内交流セミナー
第38回 CGraSS 公開レクチャー・シリーズ
2016年11月18日(金)16:30~18:30
大学・教育とセクシャルマイノリティ(LGBT)
~大学で出来る支援について考えよう~

<第1レクチャー>
講師:遠藤まめたさん

LGBTの中でも固定ニーズを抱えやすいトランスジェンダー学生の大学における支援について共に考えます。さらに、学生相談の場面において安心して話せる体制づくりや情報発信について探っていきます。

◇講師紹介◇
トランスジェンダー当事者としての体験をきっかけに10年ほどLGBTの若者支援や自殺対策に関わっている。著書に「先生と親のためのLGBTガイド—もしあなたがカミングアウトされたなら」(合同出版)ほか。



<第2レクチャー>
講師:松岡宗嗣さん

LGBTがより自分らしく生きるためには、LGBTを理解、支援したい、味方でありたいと思うALLY(アライ)の存在が必要です。そんなALLYをまずは大学から増やしていこうと、2015年12月に開催したキャンペーン“MEIJI ALLY WEEK”について、開催に至った経緯やその効果を中心に話します。



◇講師紹介◇
名古屋生まれ、明治大学在学中のオープンリーゲイ。LGBTについての出張授業等を展開するNPO法人ReBit所属。LGBT支援者であるALLYを増やすキャンペーンMEIJI ALLY WEEK代表。

- 司会: ソニヤ・デールさん (本学社会学研究科・特任講師)
- 場所: 一橋大学東キャンパス 第三研究館 研究会議室
- 連絡先: ジェンダー社会学研究センター cgrass@soc.hit-u.ac.jp

講演会企画

一橋 × LGBT

~多様性(ダイバーシティ)について考えよう~

今年も11月、ここ一橋大学で、社会科系のアクティビティを中心としたイベントが企画されました。昨年の時から、今年も、そしてこれからも、一橋では多くの異なる個性を持った学生が学び、成長を続けています。この企画は一部に開校する様々な人達による、LGBTをテーマにしたイベントです。本企画をきっかけにもっと多様な個性を他校へ広げて、多様な「ダイバーシティ」な学び環境【マイノリティ】を育むことに貢献し、社会をより良きものにしていくことを目指します。

※本企画においては、事件の発生に関する連絡、情報提供等はございません。

無料

11/25 11:00-12:30

西キャンパス 西本館36教室

司会 ソニヤ・デール

Guest Speakers!

パネリスト

NPO法人
グッド・エイジング・エールズ 代表
松中 梢

フレイグウィーン
エスムラルダ

一橋大学 社会学研究科 一橋大学 特別
川平 麗昭



エスムラルダ

一橋大学社会学部在学中のオープンリーゲイの学生です。卒業後は印刷会社に就職、その後フリーランスとなり、現在はフリーランスとして活動しています。元々活動が楽しいと、自身の経験を活かして、学生に活動の楽しさを伝える活動を行っています。



松中 梢

1976年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業後、電通に入社。海外研修先として米国NYのNPO 国際障害者福祉財団で活動。2010年、NPO 法人 特別支援福祉財団設立。2017年、6年連続で電通を離れ、二足お505P57の代表取締役。LGBTと社会をより良くするための活動に力を入れています。2020年11月に元々外へ出て活動中。

責任者: ソニヤ・デール 連絡先: s15225y@v.hit-u.ac.jp

2018年7月4日

2019年5月14日・7月8日



国立市新条例から考える キャンパスの多様性

「国立市女性と男性及び多様な性の
平等参画を推進する条例」

日時
場所
講師

2018, 7 / 4 WED 17:00 ~ 19:00

参加費無料

一橋大学東キャンパス 第3研究館 3階
(東2号館正面左横の道に入り、体育館に向かう途中左手に見える建物です。)

国立市政策経営部 市長室 室長 吉田 徳史さん
市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係 係長 森 幸雄さん
市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係 市川 綾子さん

2018年4月1日、「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」が施行されました。同条例は性的指向および性自認の定義、その公表の自由が個人の権利であること、複合差別への支援など全国でも先進的な内容を含むと注目を集めています。本イベントでは、前半に国立市の職員の方々をゲストに迎え、条例についてお話をいただきます。その後、後半には多様性が尊重されるキャンパスづくりのためには何が必要か、条例をどう活かすことができるか、参加自由のディスカッション会を行います。

学内の多様性を考える会主催

ジェンダー社会科学センター(CGraSS)・一橋大学教職員組合共催

こんなこと していませんか？

お酒が飲めないなんて
男らしくない！



✓アルハラ
✓ジェンダーハラスメント

〇〇人だからダメ



✓人種差別

大学生にもなって
彼女いないの？



✓セクハラ
✓SOGIハラ

あの子はゲイだよ

マジで！？ 拡散しよ



✓アウティング

サシ飲みに来たから
セックスしたのに……



✓性暴力

～性的同意を考える
ワークショップ～
時期：5月中旬(予定)
場所：マーキュリータワー3509教室

最新情報は
Facebook @hitotsubashi.tayoukai

今後の課題と展望：大学の取組との連携強化

本学組織内における制度化

- 2013年 一橋に男女共同参画推進室、設置
⇒育児支援、両立支援、メンタリングなど
- 2022年 ダイバーシティ推進室
- 2023年3月 一橋大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進宣言

⇒ジェンダー社会科学センター中心にボトムアップで培ってきたノウハウ、教育実績を糧にして、いかに全学的なダイバーシティ推進の取組をトップダウンで進められるのか、包括的な取組へと結び付けられるかが鍵